

広島県鉄構工業会

約60人で新年の門出祝う

「新しい技術の導入を」



山本理事長

広島県鉄構工業会（理事長＝山本泰徳・ステントス社長）は1月23日、広島市東区のシェラトン・グラン・ホテルで新年互礼会を開催。組合員のほか、広島県土木建築局の吉田勝則建築技術担当部長や日本建築学会・中国支部の田中貴宏支部長

（広島大学教授）、日本建築構造技術者協会・中国支部の近松英樹支部長（カナイ建築構造事務所）、広島大学の松尾彰名誉教授、広島工業大学の清水斉教授、組合顧問弁護士の久保豊年氏ら約60人が出席、新年の門出を祝った。

冒頭のあいさつで、山本理事長はタクシー業界が業務用アプリを導入した事例を挙げ、「ファブも3D対応など新技術をいち早く導入することが



約60人が参集した新年互礼会

生き残りには必要。加えて、労働環境の変化に対して作業を効率化していくことも求められる」とし、続いて、吉田担当部長は①労働環境の改善②デジタル技術の導入③建設キャリアアップシステムの導入（技能者の評

価）——などの取り組みを説明し、「皆さんが高度な経験を生かし、業界が発展すること、そして行政への協力を願う」とした。その後、松尾名誉教授の乾杯発声で歓談に入った。